



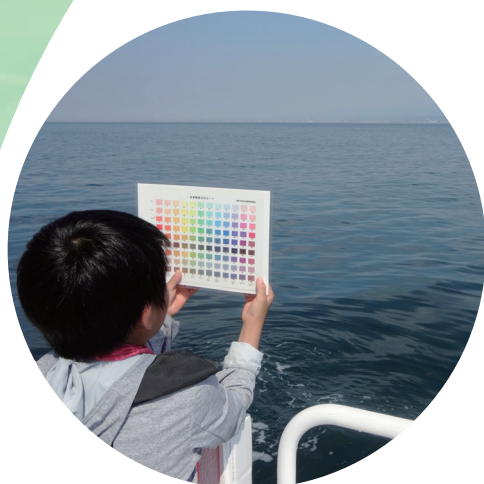
地方独立行政法人

大阪府立 環境農林水産総合研究所

Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries,
Osaka Prefecture



総合案内



大阪の環境と農林水産業を支える総合研究機関

はじめに

環農水研は、1919(大正8)年設立の「大阪府立農事試験場」から始まり、2007(平成19)年に環境情報センター、食とみどりの総合技術センター(水生生物センターを含む)、水産試験場を統合し、「大阪府環境農林水産総合研究所」として改組、2012(平成24)年には地方独立行政法人に移行しました。

地域に根差した研究所として、府域の農水産物の安全・安心かつ安定的な供給に関する研究や、大気・水質のモニタリング、自然環境や野生生物の適切な保全・保護に関する調査等を行っています。また、新たなたんばく資源の創出など、近年の社会的ニーズに対応するとともに、将来を見据えた調査研究も実施しています。

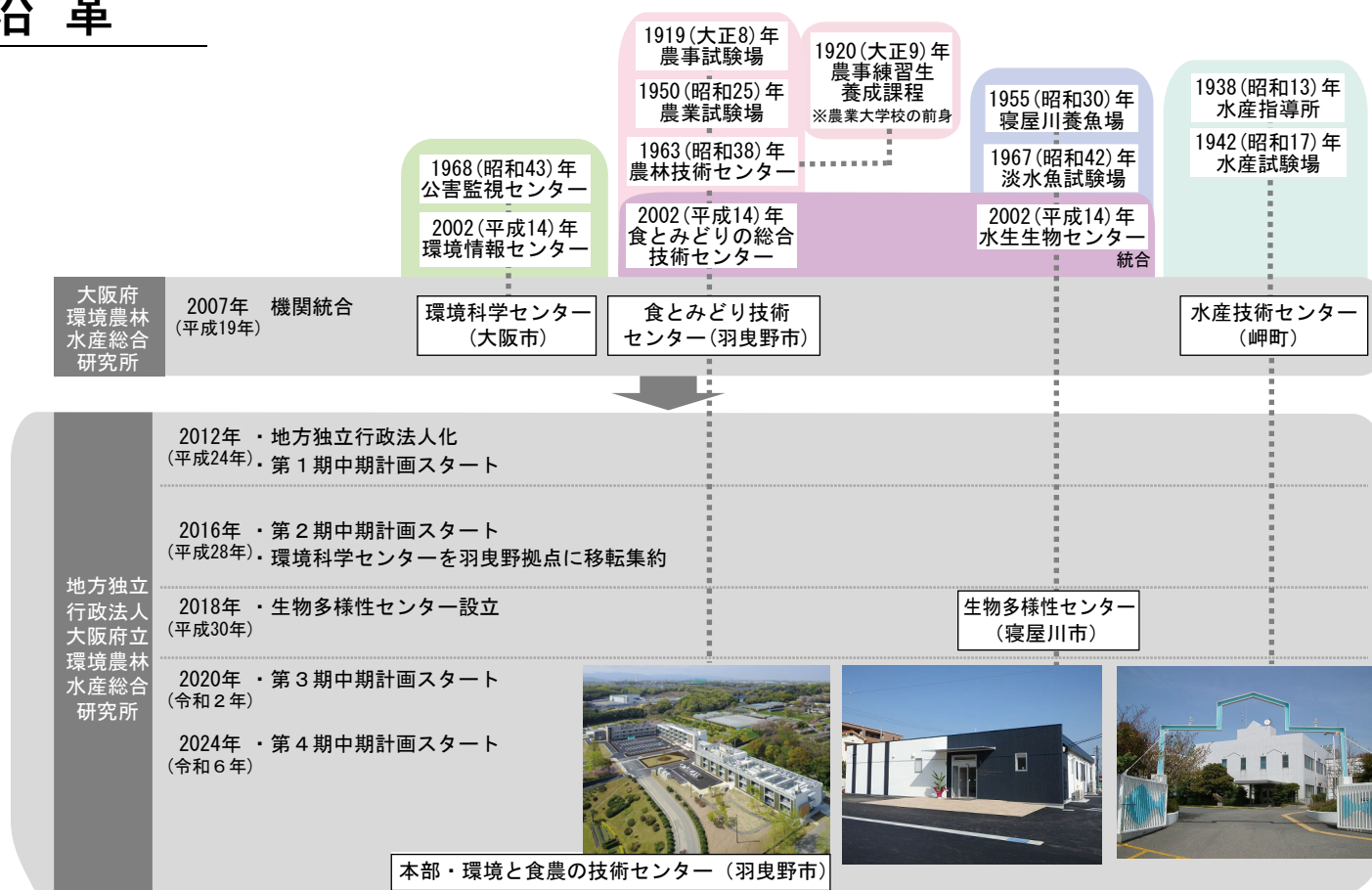
国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえつつ、事業者・行政・地域社会から頼りにされる存在感のある研究所をめざします。2025年開催の大阪・関西万博を、脱炭素社会の推進、農林水産・食品分野等の研究成果により環農水研が社会的役割を果たす好機ととらえて、調査研究に取り組んでまいります。



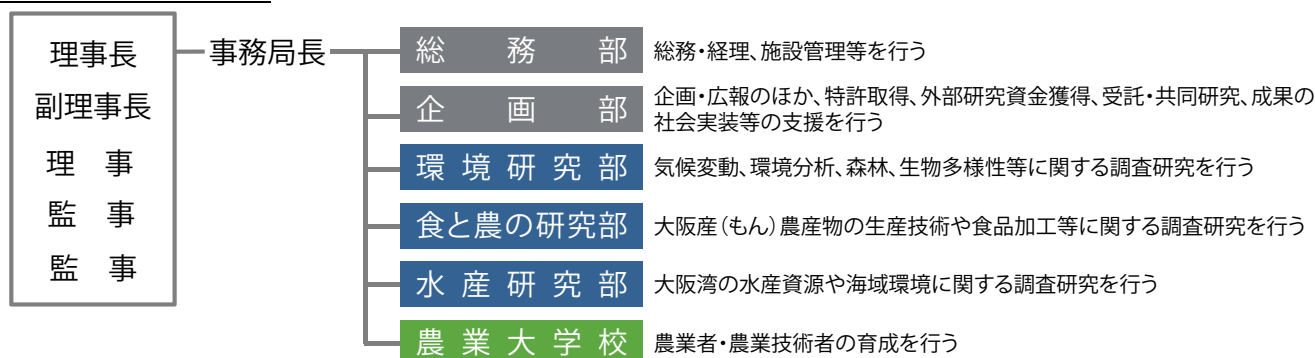
©Expo 2025



沿革



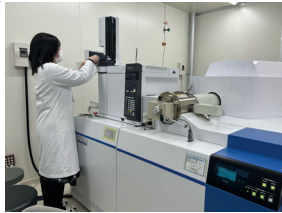
組織体制



環境研究部

大気・水質等の保全に関する調査研究

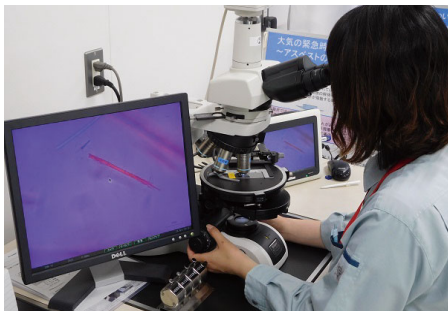
- 環境リスクが懸念される有害化学物質の分析法開発及び大気、水質のモニタリングの実施、光化学オキシダント等による大気汚染の実態把握
- 環境基準超過時のダイオキシン類等の追跡調査、農薬残留に関する調査・分析
- 大阪府が実施する環境分析の精度管理への支援
- 海域や河川等におけるプラスチックの蓄積・流出実態の把握



GC/MSでの分析

緊急事案への対応

- 河川等で発生した異常水質の原因究明のための水質分析、建築物の解体工事に伴うアスベスト分析等、緊急を要する検体の分析



アスベスト分析

気候変動適応・カーボンニュートラルに向けた取組の支援

- おおさか気候変動適応センターを運営し、気候変動の影響や適応に関する科学的な知見等を収集・分析し、発信
- 気候変動適応関連の研究や暑さ対策に関する取組を推進
- 中小事業者の省エネ・省CO₂の取組支援と情報発信



工場での省エネ診断



暑さ対策の啓発イベント

生物多様性の保全

- イタセンバラ等の希少生物の保全に関する調査研究、外来生物の実態把握・駆除技術の開発
- 魚病まん延防止や魚類へい死事故原因究明のための調査及び情報発信
- 「大阪府生物多様性地域戦略」推進のための技術支援と生物多様性保全に取組む企業や一般府民等への普及啓発、市民参加型の調査研究体制の確立



淀川水系で野生復帰が進んだイタセンバラ
(国指定の天然記念物、国内希少野生動植物種)

森林の保全・防災に係る調査研究

- グリーンインフラとしての防災・減災効果についての検証・評価
- 森林等の二酸化炭素吸収量に関する基礎データの収集



特定外来生物クビアカツヤカミキリ

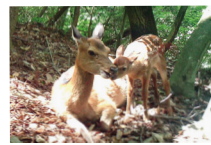


豪雨による土砂災害の発生

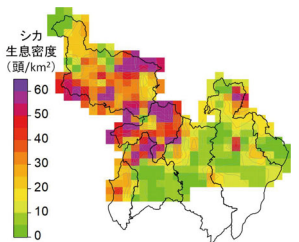
- 府域で急激に拡大している外来生物に対処するための調査及び技術支援

野生鳥獣の保護管理及び被害対策

- シカやイノシシなどの適切な保護管理や、アライグマなど外来生物の被害対策に係るモニタリング調査、動物由来感染症のモニタリング調査体制の構築



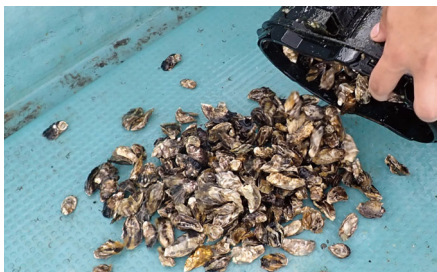
農地や森林等に被害をもたらしているシカと大阪府北部での生息密度分布



水産研究部

大阪湾における養殖業の支援

- 海藻養殖への技術支援、情報提供
- 大阪湾に適したカキ養殖方法に関する調査研究と技術支援
- 魚病対応と指導



大阪産で採苗したシングルシード養殖用種ガキ

大阪湾の水産資源の管理・増殖技術

- 漁業資源の回復や管理に活用するための資源状況のモニタリング
- 育成した稚魚の放流等、栽培漁業の調査研究
- 府内産水産物のブランド化推進



調査のために標識をつけて放流されるメバルの稚魚

食と農の研究部

病害虫診断・防除技術の開発

- 検鏡・培養・遺伝子診断による病害虫の診断技術の開発や、薬剤感受性の調査



ナス等に被害をもたらすアザミウマ類の幼虫(右)を捕食する天敵スワルスキーカブリダニ(左)



施設栽培での赤色LED装置の照射

- 植物の抵抗性を高める病害防除や様々な波長域の光を利用した害虫防除、天敵利用による病害虫防除等、環境への負荷が少ない病害虫防除技術の開発

大阪産(もん)農産物の栽培技術の開発

- 野菜や果樹、花きの新たな栽培方法の検討や生理障害対策、優良種苗の増殖等により、高品質な農産物を低コストかつ安定的に生産するための技術の開発
- スマート農業の普及に向けた栽培・生育データの取得技術の開発や栽培指標の作成
- 生産基盤である土壌の健全性の調査、有機資材や緑肥作物を活用した適切な土壌管理技術の開発



土づくりで表土の炭素貯留量が増加した土壌



カウント機能をつけたスプレーを使ってナスの花にホルモン処理をすると、自動で花数がスマートフォンアプリ上に記録され、データは収量予測に利用可能

昆虫を活用した新たなたんぱく資源の創出とその活用法の開発

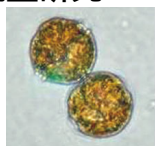
- 世界的に不足が予測されるたんぱく資源を国内の食品残渣などから育成した昆虫で補い、魚や家畜の国産飼料化を推進
- 昆虫たんぱく質のメリットや活用法を探索し、昆虫ビジネスの社会実装を支援



アメリカミズアブの成虫と幼虫

大阪湾の海域環境に関する調査研究

- 漁業被害の未然防止や食の安全の向上に向けた、有害・有毒プランクトンの発生状況調査と発生機構の解明
- 府民の憩いの場としての美しい海域環境と、豊かな漁業生産を両立させるための栄養塩管理のあり方に関する研究



貝毒の原因となる有毒プランクトン



調査船「おおさか」

ぶどう産地の活性化支援

- 大阪の環境に適したオリジナル品種の育成・新たなワイン醸造用品種の導入・開発
- 大阪ワインのブランド力向上のための技術支援



高温下での着色に優れ果肉まで着色する「大阪RN-1」



甘さと芳醇な香りが特徴の環農水研育成ぶどう「虹の雫」



GI大阪ワイン

食・健康関連の技術開発

- 未利用資源を含む農水産物の加工技術の開発や新商品開発の支援
- 減塩や機能性成分分析等の調査研究による食品の付加価値向上



乾燥工程における水なすの退色防止技術の開発

農林水産物を活かした地域活性化支援

- 府内産農林水産物の商品開発、ブランド化、地域連携などの課題解決を専門家と共に支援
- 6次産業化や衛生管理、販路開拓、商品PRなどの研修会等を開催



人材育成研修会の様子

ハートフル農業への支援

- 農業を通して、障がいや年齢、性差などにかかわらず、一人ひとりの活躍の場を生み出すことを目的として、障がい等に対応した作業方法や新たな栽培方法の研究開発を実施
- 支援学校や大学等と連携した作業改善の実証やスマート技術を用いた作業支援ツールの開発



多様な人が作業しやすい位置にぶどうの房が着果するように栽培方法を改良

都市型畜産業への支援

- 大阪府内の酪農家に対する後継牛の育成支援や、畜産環境問題への相談対応



育成中の雌子牛

研究成果の発信と技術・知見の活用推進

研究成果発信・イベント

研究成果はホームページやfacebook、X、YouTube、メールマガジンで随時お知らせするほか、一般の方にもご参加いただけるシンポジウムやセミナー等でも定期的に発信しています。また、子ども向けの体験イベント等も開催しています。



環農水研シンポジウムで研究報告を行う研究員



水産技術センターで開催する「海の教室」
調査船に乗船してプランクトン調査等を体験

他機関との連携

大阪公立大学等と包括連携協定を締結し、学術研究の振興と研究成果の社会活用の推進を図っています。また、大阪府や企業、市民団体等と連携した取組も行っています。



大学等とセミナーを共催し、研究成果を紹介



企業の生物多様性保全活動を促進するため、
ビオトープを活用して学術・技術的な支援を実施

農業大学校(大阪農大)―農業人材の育成―

大阪農大では、幅広い視野から農業を考え、時代の変化に応じた技術力と判断力、応用力を身につけた農業者及び農業技術者を養成します。

養成科 総合 課程 (2年制)

- ・ 温室組立てやトラクター操作など、農業に必要な実習を受けることができます。
- ・ 府内トップランナー農家や研究員による直接講義で最先端農業を学ぶことができます。
- ・ 2年次は自分に合った3つのコースから選択でき、就農、就職をめざします。
- ・ WEB講義+スクーリング(対面での講義)で効率よく受講できます。
- ・ 就農するための手厚い支援を受けることができます。
- ・ 農業祭、研究発表会、スポーツ大会等、キャンパスライフも充実しています。

養成科 短期 実践 課程 (1年制)

- ・ 1年制で就農に意欲的な働く世代、農業法人等の職員を対象とした働きながら学びやすい教育課程です。
- ・ 週1回の実習で栽培技術を学び、農業用機械の操作も実施できます。
- ・ 講義はWEB(オンデマンド)により、自宅で学べます。
- ・ 就農に向けた様々な具体的支援を実施しています。
- ・ 総合課程の2年生へ編入可能です。



技術支援制度

受託研究・共同研究

○農林水産業、食品等の分野で、府内企業等からの依頼に応じ、研究員が持つノウハウや環農水研が所有するほ場等を活用し、課題の解決を図ります。

○事業者を含む共同研究事業体（コンソーシアム）を構成し、競争的資金等を活用した技術開発を行います。

(例) ガラス温室・ほ場を利用した栽培試験
新素材の農業用資材としての利用調査
農産物・食品の流通・保存・加工等の試験 等

料金：有料（実験用消耗品や光熱水費等により算出します。）

簡易受託

○研究費の総額が20万円以下の試験・調査・研究・開発等を、簡易な手続きにてご依頼いただけます。

(例) 試作食品の製造（レトルト食品等）
試作飲料の味および成分の比較
花の日持ち性評価試験
ワイン品質向上のためのブドウ果汁分析
簡易分析器による栄養成分の測定 等

料金：有料
（実験用消耗品や光熱水費等により算出します。）

食品関連実験室の 共同利用

○食品に関する受託研究等をお考えの方々に、原則1回、試行的に食品関連実験室の機器を利用して試作や分析を行っていただくことができます。

(対象機器) 真空凍結乾燥機（フリーズドライ）
真空包装機、レトルト調理器
スチームコンベクションオーブン
物性測定装置、pH測定 等

料金：無料（消耗品等は利用者負担）

環農水研 各施設のご案内



生物多様性センター

〒572-0088 寝屋川市木屋元町10-4
TEL 072-833-2770 / FAX 072-831-0229

電車・バス：・京阪本線「香里園」駅（西口）から ねやBUS 木屋ルートに乗り、「木屋元町」停留所下車、西へ約200メートル（約3分）。
・寝屋川市駅（西口）から ねやBUS 木屋ルートに乗り、「太間公園」停留所下車、北へ約650メートル（約9分）

本部・環境と食農の技術センター

〒583-0862 羽曳野市尺度442
TEL 072-958-6551 / FAX 072-956-9691

電車・バス：・近鉄南大阪線「藤井寺」から近鉄バス「羽曳が丘八丁目」停留所下車。羽曳が丘八丁目停留所から北門（通用口）まで約100メートル（南方面つきあたりを右すぐ）
北門から入り、事務所棟まで約650メートル（約9分）
・近鉄南大阪線「古市」からタクシーで約15分
車：南阪奈道路「羽曳野」出口すぐ

<農業大学校>

本部・環境と食農の技術センター内にあります。
募集等のお知らせはホームページで案内いたします。
TEL 072-979-7032

水産技術センター

〒599-0311 泉南郡岬町多奈川谷川2926-1
TEL 072-495-5252 / FAX 072-495-5600

電車・バス：・南海多奈川線「多奈川」駅から徒歩1.9キロメートル（約24分）
・南海本線「みさき公園」駅または南海多奈川線「多奈川」駅から岬町コミュニティバスで「谷川」停留所下車、北方面に約500メートル（約7分）
南海本線「みさき公園」駅からタクシーで約4.5キロメートル（約10分）

